



No. 55 [平成30年 7月23日]
岡山県総合教育センター
〒716-1241
加賀郡吉備中央町吉川7545-11
TEL(代) (0866)56-9101
(特別支援教育部)(0866)56-9106
(特別支援教育部相談専用電話)
TEL (0866)56-9117
<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp>

謹んでお見舞い申し上げます

この度の「平成30年7月豪雨」によって、大きな被害のあった地域の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。メディア等で報じられる被災地域の現状に心を痛める毎日です。一刻も早い復興を祈るばかりです。被災地域の皆様に普段の生活が戻り、子どもたちが安心して学校で学ぶことができるよう、私たち一人一人ができるサポートを考え、実践していけたらと思っています。

このような非常時の際の環境の変化に、心身のバランスを特に崩しやすいのが、障害のある子どもたちではないかと思えます。国立特別支援教育総合研究所のWebページには、「災害時における障害のある子どもへの配慮」という内容が掲載されています。<http://www.nise.go.jp/cms/7,0,70,272.html> 同様に、発達障害情報・支援センターWebページ(<http://www.rehab.go.jp/ddis/>)、おかもやま発達障害者支援センターWebページ「災害時の発達障害児・者支援について」(<http://asdashien.jp/disaster.html/>)にも、災害時の支援に関する情報提供がなされています。ぜひ、ご一読ください。

夏の研修講座の紹介

【特別支援教育部が実施する研修講座一覧】

| | |
|-----------|--|
| 7月25日(水) | はじめての特別支援学校研修講座(授業づくり等に関する基礎) 寄宿舎指導員研修講座 |
| 8月1日(水) | 合理的配慮・インクルーシブ教育システム等基礎研修講座(発達障害1) |
| 8月3日(金) | アセスメント研修講座(発達障害2) |
| 8月6日(月) | 通級指導教室研修講座 特別支援学校授業力アップ研修講座(生活単元学習) |
| 8月7日(火) | 特別支援教育コーディネーター・ブロックリーダー研修講座(応用) 就学前特別支援教育研修講座 |
| 8月9日(木) | 通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり基礎研修講座 訪問教育研修講座 |
| 8月20日(月) | 特別支援学校授業力アップ研修講座(自立活動) |
| 8月21日(火) | 青年期の発達障害研修講座(発達障害3) キャリア教育・就労支援充実研修講座(高特) |
| 8月22日(水) | 小・中学校特別支援学級(知的障害/自閉症・情緒障害)授業力アップ研修講座 |
| 8月24日(金) | 肢体不自由 授業力アップ研修講座 |
| 10月18日(木) | 小学校算数科における特別支援教育の観点を取り入れた授業を考える研修講座(サテライト) |
| 10月23日(火) | 小学校国語科における特別支援教育の観点を取り入れた授業を考える研修講座(サテライト) |

夏季休業中を中心に特別支援教育部が実施する希望研修講座の一覧をお示ししています。

講座内容の詳細につきましては、チラシをWebページにアップしていますので、ご参照ください。
(<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/gakkoushien/tokubetusien/kouzatirashi.html>) 研修講座によっては、定員の関係で締め切っているものもありますが、まだ、受講可能な講座もありますので、奮ってご参加ください。現在、特別支援教育部では、外部講師、実践発表者の方々と連絡を取り合いながら、よりよい研修になるよう、全力で準備をしているところです。ぜひ、最新の情報や先進的な実践に触れて、2学期の教育実践に生かしていただけたらと思います。

新学習指導要領解説から

教育課程の改訂に伴って刊行された「特別支援学校学習指導要領解説各教科等編」に「知的障害のある児童生徒の学習上の特性等」という項があり、そこに、知的障害があるために生じる様々な状態像が記述されています。この項については現行の解説にもあるのですが、その中に、今回の改訂に伴って新たに付加された記述があります。それは「(知的障害のある)児童生徒が一度身に付けた知識や技能等は、着実に実行されることが多い」というものです。

現行の解説では、児童生徒の困難さに目を向けた記述が中心でしたが、付加された部分は、知的障害のある児童生徒の良さや強みに注目して記述しており、そのことに新鮮さを覚えます。そして、ここに書かれているように「一度身に付けた知識や技能」が「着実に実行される」のであれば、知識や技能を「一度身に付けた」という状態に、教師がどのようにして導いていくのかということがとても重要なポイントになると思うのです。

上智大学の奈須正裕教授は、知識の習得と活用について、興味深い論を展開されています。「本来的に人間の学習や知性の発揮は領域固有なものであり、文脈や状況に強く依存していることが分かってきたのである。この考え方を心理学では、状況的学習ないしは状況に埋め込まれた学習 (situated learning) と呼ぶ。状況的学習論の立場では、学習とは具体的な文脈や状況の中で生じるものであり、学ぶとはその知識が現に生きて働いている本物の社会的実践に当事者として参画することであると考える。(中略) 具体的な文脈や状況を豊かに含みこんだ本物の社会的実践への参画として学びをデザインしてやれば、学び取られた知識も本物となり、現実の問題解決に生きて働くのではないか。これがオーセンティック (authentic=真正の、本物の) な学習の基本的な考え方である」 (「内外教育」2018. 4. 24)

この奈須教授の論考は、特別支援教育の文脈で書かれたものではありません。ですが、知的障害教育における各教科や生活単元学習等の各教科等を合わせた指導の趣旨と相通じるものを感じるのです。これまで知的障害教育において脈々と実践されてきた指導形態が、学校教育の中で脚光を浴びる時代がやってきたとも言えます。当センター特別支援教育部でも「知的障害教育における『主体的・対話的で深い学び』に関する研究」というテーマで研究を進めており、より一層、知的障害のある子どもたちの学びについて深めていきたいと考えています。

【編集後記】

「特別支援教育つうしん」は、平成2年の12月に第1号(当時の名称は「障害児教育つうしん」)が刊行され、今回で55号の発刊となります。当初は紙媒体で作成され、各学校に送付しておりましたが、平成21年の第29号からWeb発信となり、それを機会に、編集担当を特別支援教育部長が担うようになりました。従って、今年度から、私、片岡が、この「特別支援教育つうしん」の作成に当たることとなります。片岡個人の思いや考えも入り込むかもしれませんが、各学校にとって参考となる情報を取り上げ、お伝えしていきたいと考えています。一年間、どうぞよろしくお願いいたします。